中国レポート

中国の環境政策と持続可能な発展戦略

Ｐａｒｔ　２

政策研究大学院大学

(独)科学技術振興機構　中国総合研究センター　アドバイザリー委員

角南　篤

Ⅰ．はじめに

これまでの中国は、一貫して市場経済化を目指した制度改革を推し進めてきた。ところが、目標としてきた経済発展は、急速な工業化とともに環境汚染など深刻な問題も併発している。そこで、前回のレポートで取り上げたように、80 年代以後、中国では、「持続可能な発展」という新たな目標を打ち出して、地域の自然環境や生活環境を壊すことなく、経済発展と資源利用のバランスをはかり、安定的社会発展に欠かせないニーズを満たすことが強調されてきた[1]。

前回のレポートでは、「中国 21 世紀議程」（アジェンダ２１）と「国家持続可能な発展実験区」について説明し、持続可能な発展実験区に認定された国家級及び省レベルの実験区の概況を紹介した。このような持続可能な発展戦略は、中国の国家中長期科学技術発展計画（2006-2020）及び第 11 次五ヵ年計画（2006-2010）における重要目標のひとつとして改めて明記されていることなどから、施行されてから 20 年間のこれまでの成果がある程度評価されていると考えられる[2]。

そこで、「持続可能な発展実験区」に指定された地域において、インフラ整備や観光開発など、具体的にどのような形で開発が推進されているかを理解するために、今回のレポートでは、「持続可能な発展実験区」のケースとして陝西省華陰市の取組みを紹介する。これまでの沿海地域における外資などの投資誘致以上に、地方政府による教育投資や地域活性化のためのインフラ整備など高い自治能力が要求される。一方で、「持続可能な発展」は、自助努力のみで環境保全と貧困撲滅の双方の課題解決を導き出すことがきわめて困難なことから、中国政府は積極的に先進諸国の国際開発協力機関などとの人的交流を通じて、こうした問題を解決する方法を模索している。本レポートの後半では、「国家持続可能な発展実験区」における国際協力プロジェクトについても紹介する。

1　2006 年 11 月 9 日「持続可能な経済発展の実験区 20 周年総会」での科学技術部副部長劉燕華講話より。

2　2006 年に科学技術部は実験区の発展に関する一連の広報活動を展開した。例えば、2006 年 11 月 8 日～11 日までに北京展覧館で「走向可持续发展成就展」（持続可能な発展に向ける業績展）が開かれた。その内容は主に、各実験区の 20 年の発展と取組みの成果を紹介し、持続可能な発展戦略の中で、各実験区が経済、社会、環境などの各領域における実践、革新と成果を探求して、それぞれ区の自然、環境、人文と社会などの領域の特徴や、地元の群衆の生活状態を紹介することである。

Ⅱ. ケース: 陝西省華陰市の持続可能な発展実験区[3]－華山の観光資源の利用

一、華陰市の概況と直面する課題

1. 概況

華陰市は陝西省中東部にある新興観光都市であり、管轄区域の総面積は 817 平方キロメートル、総人口 は 25 万人、市内には 44 の観光名所があり中でも最も有名なのは「華山」である。華山は標高 2160.5 メートルで、中国五大名山の代表的な山である。現在、観光客は年間平均 60～80 万人で、この地域の観光収入は 2.9 億元に達したと報告されている。観光は、すでに華陰市の基幹産業のひとつになっている。

1996 年、旧国家科学技術委員会、旧国家発展計画委員会、旧国家経済体制改革委員会は華陰市を「郊外」型の国家社会発展総合実験区に指定し、華山の観光業をリーディング産業とした。したがって、地域の発展を支える華陰市の観光産業は中国政府のモデルケースとして期待されることになった。

2. 直面する課題

中国政府の調査によると、華陰市の観光客は主に国内から来ている。観光地は主に華山周辺の景勝地で、時期は毎年 7、8、9 月に集中する。こうしたなかで、次の様な課題に直面している。

① 観光資源が「華山」に一極集中しているため、観光客の受け入れキャパシティーが限られている。
② 観光客の平均滞在日時は短く、観光地での 1 人当たりの消費も少ない。
③ 華山観光は登山が中心で、その他の観光資源に対する開発が遅れている。

二、これまでの取組み

実験区に認定される前から華陰市は「山は都市を発展させ、村もそれに伴って発展する」という戦略を制定しており、華山実験区の設立にともない、観光業の発展が重要視されはじめた。 また、2010 年までの長期目標として、「観光業をベースに都市を発展させる」とのスローガンを掲げ、産業構造については観光業の下、サービス業という第三次産業を実験区の経済発展の柱に据えて実験計画を開始した。

1. 具体的な施策の例

(1) インフラ建設によるサービスレベルの向上

ここ数年間、華山観光地区の開発は進み、12.5 キロの華山谷の登山道の建設や、

[3]中国 21 世紀議程管理センター http://www.acca21.org.cn/local/anli/anliintro.htm

「千尺棟」、「百尺峡」、「行きはしご」、及び「北の峰」から「雲峰」までアクセスできる登山道をそれぞれ建設した。また、「東道教の寺院」、「引鳳のあずま」や、「不老長生の丹薬を作るストーブ」、「将棋(碁)のあずま」などの景観の修復、通信や給水ネットワーク、電力供給等のインフラや、華山ホテル、蓮花山荘などホテル施設までも整備した。さらには、華山の黄甫の谷への観光道路、特にアジアでも有数の華山ロープウェーの建設なども行っている。

(2) 観光地区の管理の強化

交通や治安、観光地域の経営管理などを強化するため、新しく華山の公安支局、商工業支局、北の峰の派出所が創立された。また、環境や衛生面での管理を規範化、制度化し、観光業を支えてきた。

(3) 宣伝活動の展開による知名度向上

環境を改善すると同時に華山の知名度を高めるため、各種の販促活動が行われた。具体的には、棋種類祭り、登山祭り、世界の華人、国際ロッククライミング大会などの活動や、唐祭山の大典、香港・シンガポールなど国内外地域で華山画展が開催された。また、省の新聞雑誌、テレビ局に観光案内のコマーシャルを出し、華山の映像を衛星を通じて全世界に放送するなど様々な活動が展開された。

2. 効果

観光型都市を形成するため、3.8 億元の投資によるインフラ整備が行われた。具体的には、

- 植物園、遊園地、図書館、華岳の広場、市内の病院の建造
- 華岳路、東興道、環城西路の開通、古い西潼道路の改造
- 市街区域の電力ネットワークの整備
- CATVのネットワーク化の工事

などが行われ、近代的な観光都市が完成した。

これらの他にも、農業総合開発の大模範プロジェクトの実施や各種社会事業の進歩等が実施された。

3. 今後の計画

農業パークの建設。具体的には、“古代文明”の農業製品や都市住民のための人造の湖に娯楽用のレジャー施設の建設、華山休暇村と別荘用区域の開発、少年教育のための近代的農園と少年活動センターの建設、近代農業の発展の支援など。

Ⅲ.「国家持続可能な発展実験区」における国際協力プロジェクト

一、中国－EU 環境管理協力計画～地方と都市における発展プロジェクト（EMCP/LMD）

当プロジェクトは中国と EU の協力プロジェクトである EMCP（Environmental Management Cooperation Programme）の 4 つのプロジェクトのひとつとして位置付けられる。その目標は、地方政府と地域コミュニティの環境マネジメント及び持続可能な発展の領域における知識と能力の向上である。持続可能な発展に関する意識を高め、有益な情報の共有を促進し、環境管理方法を提供する。

このプロジェクトは、中国の地方で展開されている実験区をベースとしており、次の 4 部分に分けられている。（①模範プロジェクト、②人材育成と交流、③情報共有と宣伝、④計画策定指導。）当プロジェクトは地方の状況と特徴をもとに、『持続可能な発展計画の指南』を作成する。

都市計画、コミュニティ管理、資源、環境管理などの領域を対象に 7 つの実験区を選定し、模範プロジェクトとして全国に普及させる。そして、これらの実験区とヨーロッパの各都市間で持続可能な発展に関連する産業の技術協力と人的交流を進める。また、持続的発展が可能な都市間のネットワークと情報システムを構築する。

（出典）http://www.acca21.org.cn/local/emcplmd/lmdintro.htm

EMCP/LMD（Local and Municipal Development）プロジェクトは、中国側は中国 21 世紀議程（アジェンダ 21）管理センターの藩暁東氏が担当している。一方、EU 側は国際地方環境理事会（LCLEI）高級顧問である Tom Wolters 氏が担

当している。

二、　中国・国連人間居住センター（UN HABITAT）協力計画
～中国「持続的発展が可能な都市」(SCP)の国際協力プロジェクト

現在、中国政府は「持続的発展が可能な都市」(SCP)の国際協力プロジェクトを実施している。1996 年からは、中国の武漢と沈陽が当計画に参加している。また、中国 21 世紀議程（アジェンダ 21）管理センターと UN HABITAT は 2005 年 1 月 7 日に「中国都市普及プロジェクト(SCP Ⅱ)の推進」計画に調印した。この国際協力プロジェクトの実施時間は 2 年（2005 年 1 月～2006 年 12 月）である。そして、この国際協力プロジェクトは中国の第 2 ラウンドの実験都市で SCP 計画を実施し、中国固有の特色をもつ都市にでも適合する SCP 過程と方法を模索している。

三、　中国・オランダにおける地方政府の持続可能な発展の管理能力評価に関する指標研究プロジェクト

中国 21 世紀議程（アジェンダ 21）管理センターは、オランダ地方政府国際連合会（VNG International）と 2006 年 4 月から 2006 年 9 月までの間に持続可能な発展の管理能力の評価指標に関する研究プロジェクトを行った。当プロジェクトは、オランダ地方政府国際連合会が実施しているプロジェクトの一部であり、オランダ外務省が出資している。この研究プロジェクトにより開発された評価指標（GPIs）をもとに、中国 21 世紀議程管理センターが国家持続可能な発展実験区を評価する。

その他に、UNDPや在中国英国大使館の資金などをもとにした国際協力プロジェクトがある。

Ⅳ. おわりに

中国における 21 世紀議程（アジェンダ 21）は、中央政府と地方自治体との間や地方自治体の間で、深刻な環境問題と貧困問題をどのように克服し、持続的な経済発展をもたらすのか協力しながら進められている。今後も、資源開発と環境保全および人口に関する諸問題に重点を置きながら、経済および社会発展の方向性を摸索する「持続可能な経済発展実験区」の役割は重要になる。とりわけ、先行的に発展している沿海・東部地域と出遅れている中・西部地域の格

差を是正することへの期待は大きい。また、資源開発や環境保全の問題は中国国内のみならず、日本を含むアジア地域や世界の問題でもある。中国における「アジェンダ 21」を成功裡に導くために、国際的な協力がますます重要になってくる。

参考資料:

- 科学技術部農村與社会発展司、中国 21 世紀議程管理センター編『中国可持续发展实验区的探索与实践』(社会科学文献出版社・2006 年)
- 中国科学院地理科学與資源研究所編『中国地方可持续发展规划指南』(社会科学文献出版社・2006 年)
- 21 世紀議程管理センターHP http://www.acca21.org.cn/local/index.htm
- 中国科学技術部 http://www.most.gov.cn/
- 新華網 http://news.xinhuanet.com/misc/2002-08/27/content_540153.htm

角南 篤
陳 漓屏

(注)本レポートは JST 研究開発戦略センター／海外コンサルタントレポートの再掲です。